

●●●● 新たな学習評価への理解促進に向けて ●●●●

教育庁指導部 義務教育指導課長 中嶋 富美代

先日、ある新聞に「前例ない運動会に学ぶ」という見出しで、都内中学校の保護者の声が掲載されていました。そこには、コロナ禍で集団行動が制限される中、種目選定を工夫しながら先生と生徒が一丸となり運動会の成功に向けて取り組んでいたこと、今の状況で「何ができるか」をあきらめずに考える重要性を教えてくれた素晴らしい運動会であったことが記されていました。

今、全ての学校の先生方が、この記事と同様に「今の状況でできることは何か」を日々考えながら、子供たちの学びを止めない様々な工夫を行ってくださっています。このことに改めて感謝を申し上げますとともに、広域行政の立場から学校現場を支えることができるよう、義務教育指導課として教育活動に必要な役立つ情報等の提供に取り組んでまいります。

さて、現在、多くの学校から学習評価に関する学校訪問の依頼を受けています。訪問に当たっては、新しい評価の観点である「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点ではそれぞれ何をどうやって評価するのか、観点別評価から評定への総括はどのように行うのか等、様々な質問をいただいています。新学習指導要領の趣旨を踏まえた教育課程を実施していくためには、児童・生徒一人一人の力を伸ばす授業を創る「指導と評価の一体化」が重要です。

そこで、これまでに配布した指導資料「指導と評価の一体化を目指して」や区市町村教育委員会向けプレゼン資料に加え、特に問合せが多い「主体的に学習に取り組む態度」の評価について、教科ごとのポイントを示すこととしました。本号の活用によって学習評価への理解を深めていただき、各教科等で育成を目指す資質・能力を児童・生徒が確実に身に付けられる授業を構築していただきますようお願いいたします。

掲載 内容

- 「主体的に学習に取り組む態度」の評価のポイント
(中学校 国語、社会、数学、理科、外国語の事例を中心に)



東京都教育委員会のホームページ内「学びの支援サイト」
→ 令和2年度に発行されたメール・マガジン「スクラム」
は、こちらに掲載しています。
(URL https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/content/learning_support.html)



情報ポータルサイト「とうきょうの情報教育」
→ プログラミング教育、情報モラル教育及びICT利活用について、都内の事例や資料を掲載しています。(URL <https://infoedu.metro.tokyo.lg.jp/>)

★ 本メール・マガジンの配信を希望する方は、件名に「メール・マガジン配信希望」、本文に所属・氏名を御入力いただき、S900024@section.metro.tokyo.jpへメールを御送信ください。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価のポイント (中学校 国語、社会、数学、理科、外国語の事例を中心に)

各教科における評価は、学習指導要領に示された各教科の目標や内容に照らして学習状況の評価するものです。特に「学びに向かう力、人間性等」は、「主体的に学習に取り組む態度」として観点別学習状況の評価を通じて見取ることができる部分と、観点別学習状況の評価や評定にはなじまない、個人内評価を通じて見取る部分があります。

そこで本号では、「主体的に学習に取り組む態度」の評価のポイントについて、中学校の国語、社会、数学、理科、外国語の事例を中心に掲載します。小学校の先生方も、評価について理解を深めるために本号を是非御活用いただき、これからの授業改善にお役立てください。

【「主体的に学習に取り組む態度」の評価で求められる二つの側面】

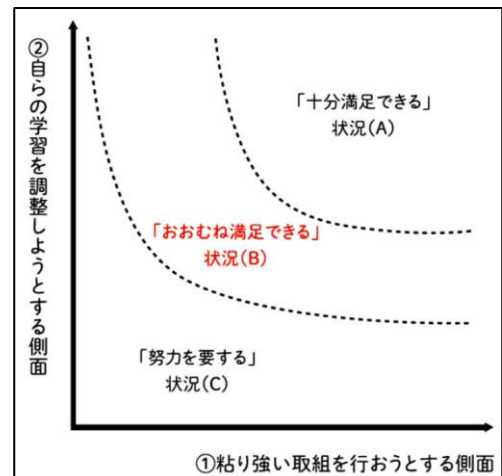
「主体的に学習に取り組む態度」の評価に際しては、単に継続的な行動や積極的な発言を行うなど、性格や行動面の傾向を評価するというのではなく、各教科等の「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点の趣旨に照らして、上述のような意思的な側面を評価することが重要です。

従前の「関心・意欲・態度」の観点も、各教科等の学習内容に関心をもつことのみならず、よりよく学ぼうとする意欲をもって学習に取り組む態度を評価するという考え方に基づいたものであり、この点を「主体的に学習に取り組む態度」として改めて強調するものです。

さらに、「主体的に学習に取り組む態度」については、

- ① **知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面**
- ② **①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面**

という二つの側面を評価することが求められます。これら①②の姿は実際の教科等の学びの中では別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられることから、**実際の評価の場面においては、双方の側面を一体的に見取ることも想定されます。**例えば、児童・生徒が自らの学習を全く調整しようとせず粘り強く取り組み続ける姿や、粘り強さが全くない中で自らの学習を調整する姿は一般的ではないと考えられます。



「主体的に学習に取り組む態度」の評価イメージ

【「主体的に学習に取り組む態度」の評価における留意事項】

「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、知識及び技能を習得させたり、思考力、判断力、表現力等を育成したりする場面に関わって行うものであり、その評価の結果を、**知識及び技能の習得や思考力、判断力、表現力等の育成に関わる教師の指導や、児童・生徒の学習の改善にも生かすことにより、バランスのとれた資質・能力の育成を図るという視点が重要です。**

具体的な評価の方法としては、ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察や、児童・生徒による自己評価や相互評価等の状況を、教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いることなどが考えられます。その際、各教科等の特質に応じて、児童・生徒の発達の段階や一人一人の個性を十分に考慮しながら、「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で、評価を行う必要があります。したがって、例えば、ノートにおける特定の記述などを取り出して、他の観点から切り離して「主体的に学習に取り組む態度」として評価することは適切ではないことに留意する必要があります。

国語

知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、その粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面の双方を適切に評価するため、特に、粘り強さを発揮してほしい内容と、自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動を考えて授業を構想し、評価規準を設定することが大切です。

【具体的な事例について】

単元名：投書を書こう～多様な読み手を想定して文章全体を整える～ 第3学年 B書くこと

※ 目標や評価規準等の詳細は、『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料「中学校・国語」P.50～P.57を参照してください。

ポイント：単元の評価規準を踏まえて設定したキーワードにより評価する

本単元で、主体的に学習に取り組む態度をどのように育成するかを想定し、評価規準を設定します。

- ・ 文章全体をふかんし、多様な読み手に対して自分の考えが分かりやすく伝わる表現になるよう文章を整えようとする過程で、特に粘り強さを発揮させたい。
- ・ 文章の構成や表現の仕方等について、今まで学習したことを生かして自分の考えを投書に書く活動の中で、自らの学習の進め方を調整できるようにしたい。

評価規準：進んで文章全体を整え、今までの学習を生かして自分の考えを投書に書こうとしている。

「おおむね満足できる」状況（B）の例を、以下の【キーワード】によって具体的に想定しています。

【キーワード】多様な読み手に自分の考えが分かりやすく伝わる表現の検討

第3時：投書にふさわしい表現について考える。

：読み手の立場に立って自分の下書きを読み、目的や意図に応じた表現になっているかを確認する。

→ 下書きの文章の構成や表現の仕方を確かめる際に、生徒がワープロソフトのコメント機能を用いている様子や書いている内容を【キーワード】により評価し、必要に応じて指導を行っています。その後、下書き原稿を印刷して提出させ、それを【キーワード】によって評価しています。

【生徒がコメントを書き込んだ下書きの例】

テレビで、自動車の危険な運転のニュースが連日のように流れている。それは、心のゆとりなさによって起きてしまうのではないだろうか。

先日、いつも通る信号のない横断歩道に近づくと、車がこちらに向かって走ってきた。私は、車が通り過ぎるのを待とうと思い、立ち止まった。すると、その車はゆっくりと止まってくれたのだ。私が会釈をして渡ろうとすると、車を運転していた人は笑顔を返してくれた。

一生道を譲り続けても合計は百歩にもならないという言葉が教えてもらったことがある。私は、笑顔で道を譲ってもらったとき、心が温まった。ちょっとした譲り合いが、私たちの心を温めてくれる。譲り合う気持ちを大切にしてみませんか。

コメント【①】：いきなり自分の考えが書いてあるので、この考えに賛成しない人は、読むのをやめてしまうかもしれない。最初は自分が経験した出来事から書き始め、物語のように話を進めることで、分かりやすく自分の考えを伝えられるようにしたい。

コメント【②】：誰の言葉？（山田）

コメント【③】：誰から？（佐藤）

コメント【④】：誰から教えてもらったかが分からないので、学校の先生から教えてもらったと書く。先生に確認して、正確に紹介することで説得力を高めたい。

コメント【①】では、投書にふさわしい表現を考えた結果、投書の読み手は様々な立場にあたり多様な考えをもっていたりすることを想定し、書き出しでは自分の考えを示すのではなく、具体的な体験を述べることで自分の考えが分かりやすく伝わる表現にしようとしています。また、コメント【②】、【③】は第2時に他の生徒から受けた指摘です。それらを踏まえて、コメント【④】では、資料を適切に引用することで読み手に対する説得力を高めようとしています。これらのことから、【キーワード】に該当すると判断しています。

社会

社会的事象について主体的に調べ分かって学習上の課題を意欲的に解決しようとする態度や、よりよい社会の実現に向けて、多面的・多角的に考察、構想（選択・判断）したことを社会生活に生かそうとする態度などの「社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う」ことが社会科の目標の（3）に示されています。

【具体的な事例（公民的分野）について】

単元名：世界平和と人類の福祉の増大 D 私たちと国際社会（1）世界平和と人類の福祉の増大

※ 目標や評価規準等の詳細は、『『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 中学校社会』P.92～P.101を参照してください。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価を行う際の留意点

第一に、**生徒が見通しを立てる機会を設けること**、第二に、**学習を振り返る機会を設けること**、第三に、**教師や他の生徒による評価を伝えることが挙げられる。**

- 「主体的に学習に取り組む態度」については、国際社会に関する学習に対して、自らの学習を調整しようとしながら粘り強く取り組み、世界平和と人類の福祉の増大のために、主体的に社会に関わろうとする態度について評価します。このうち、「自らの学習を調整しようとしながら粘り強く取り組む状況」については、単元末で、単元のはじめに立てた見通しを踏まえて学習を振り返り、次の学習や生活に生かすこととして見いだした内容により評価します。
- 公民的分野の評価規準に位置付けている「主体的に社会に関わろうとする態度」については、単元の学習後も関心をもって自ら追究し続けたい、解決、改善を図っていききたいこととして見いだした、問いの内容とその社会的意義の記述によって評価します。単元の授業が終了したときに、問いを見いだしているということは、生徒が、単元の学習終了後も進んで問いを解決するために必要な情報を収集したり、それらを基に友人や家族などと議論するなどして考えたりし続けることを意味します。

評価規準：世界平和と人類の福祉の増大について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会と関わろうとしている。

- 「自らの学習を調整しようとしながら粘り強く取り組む状況」については、単元の学習を振り返って、問いに対する取組や学習したことから今後の学習や生活に生かそうとすることを見いだしていれば「おおむね満足できる」状況（B）と判断します。
例①：「□□さんの意見を基に自分の考えを修正したところ、修正前よりよいものができた。次の学習でも異なる考えを聞きながら自分の意見を考え直すことを大切にしたい。」
例②：「これからの社会の在り方を判断する際、持続可能性の点から考えることはとても大切だと分かった。これから、自分の子供たちの世代のことも考えて判断していきたい。」
- 「主体的に社会に関わろうとする態度」については、学習した内容やそれに関連することの中から「これからも問い続けていきたいこと（追究していきたいこと）」を挙げるとともに、その社会的意義を簡単に記述していれば「おおむね満足できる」状況（B）と判断します。
例：「紛争やテロの問題を解決したい。全ての人の安全保障が、我が国の安全とも深く関係していると思うので。」

「自らの学習を調整しようとしながら粘り強く取り組む状況」と「主体的に社会に関わろうとする態度」についての記述が、いずれも「おおむね満足できる」状況（B）の場合、「主体的に学習に取り組む態度」の評価を「おおむね満足できる」状況（B）とします。

「十分満足できる」状況（A）については、生徒が実現している学習の状況が質的な高まりや深まりをもっていると判断されるときであり、多様な状況が考えられます。

「努力を要する」状況（C）である場合、単元の途中で教師が見取った自らの学習を調整しようとしながら粘り強く取り組む状況、すなわち、「学習改善につなげる評価」を（再度）伝えたり、また、どのようなことをどのようにして書いたのか、他の生徒に尋ねるよう助言したりすることが考えられます。

教師や他の生徒による評価を伝えることについては、生徒が自らの学びの過程を捉える上で力強い支援となります。教師は、生徒とコミュニケーションを取りながら、追究過程において優れていたことや成長が見られた部分、改善すべき部分に気付かせていくことが効果的と考えられます。

数学

数学的活動の楽しさや数学のよさに気付いて（を実感して）粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って検討しようとする（評価・改善しようとする）態度、多面的に捉え考えようとする（多様な考えを認め、よりよく問題解決しようとする）態度を身に付けているかどうかについて評価します。「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、知識及び技能を習得させたり、思考力、判断力、表現力等を育成したりする場面に関わって行うものであり、その評価の結果を、知識及び技能の習得や思考力、判断力、表現力等の育成に関わる教師の指導や生徒の学習の改善にも生かすことによりバランスのとれた資質・能力の育成を図るといふ視点が重要です。

※ 下線部は第1学年、()内は第2・3学年の目標

【「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法の例】

① 一つの問題に対するいくつかの解き方を比較し、自分なりの考察を加えて残した記述を基に評価する例

いくつかの解き方について、比較したり、自分なりの考察を加えたりする場面を設定し、「主体的に学習に取り組む態度」の評価に取り入れることが考えられます。

複数の解決方法がある場面では、共通点や相違点に着目させた後、自分なりに考察する場面を設定し評価につなげます。

解き方

$$\begin{aligned} x^2 + 6x + 4 &= 0 \\ x^2 + 6x + 3^2 &= 3^2 - 4 \\ (x + 3)^2 &= 5 \\ x + 3 &= \pm\sqrt{5} \\ x &= -3 \pm\sqrt{5} \end{aligned}$$

解の公式を使っても解けるけど、式が複雑なので、平方完成して解く方法を覚えておく。

② 小単元の取組を振り返り、「わかったこと・大切な考え方」や「よくわからないこと・もっと知りたいこと」などについての記述を基に評価する例

ワークシート等で、「わかったこと・大切な考え方」、「よくわからないこと・もっと知りたいこと」について振り返って書く場面を設定します。これまでの学習の過程を振り返って、既習の学習内容に関連付けたり、これからの学習を見通したりすることを評価します。

例えば、小単元「1. 二次方程式とその解」の後には、一次方程式や連立方程式と、二次方程式の違いについて考える場面を設定することで、「解の個数」や「式の形」に着目した記述をまとめ、「よくわからないこと」では、解の求め方等の次の学習につながる記述も期待できます。

単元の目標 二次方程式について理解し、問題の解決に使いこなせるようになるう！	
単元の問い 求めたい数量について、相乗関係に着目し、求めることができるか？	
わかったこと・大切な考え方など	もっと知りたいこと・よくわからないこと
小単元 1 2次方程式を解けるようになったので、 1次方程式と比べて、 解の個数が2個あることに気づいた。 また、 $x^2 + 4x + 4 = (x+2)^2$ のように、 完全平方形になるものがあることに気づいた。	なぜ $x^2 + 4x + 4 = (x+2)^2$ になるのか？ また、 $x^2 + 4x + 4 = (x+2)^2$ のように、 完全平方形になるものがあることに気づいた。
小単元 2	

③ 既習の学習内容を踏まえて解の求め方を考察し、整理したノートの記事を基に評価する例

既習の考え方を踏まえて解き方が発展していく内容については、積極的に振り返る場面を設定し、生徒の振り返りの内容や学習感想等から評価することが考えられます。

例えば、生徒の記述から、「その後の計算に向けて間違えないようにしましょう」という意思を読み取る。学習のまとまりの中で大切な考え方を指導し、これまでの学習と関連付けてポイントを整理できるようにし、その様子を積極的に評価していきましょう。

例) $x^2 + 4x - 7 = 0$ $x^2 + 4x + 2^2 = 7 + 2^2$ $(x+2)^2 = 11$ $x+2 = \pm\sqrt{11}$ $x = -2 \pm\sqrt{11}$	$x^2 + 20x + 100 = (x+10)^2$ 7を移項+3 11と2を11と3 ※xの係数が4の半分
--	---

④ 問題を解決するための構想を立てる場面や振り返りの場面での取組の様子を観察し、評価する例

問題を解決するための構想を立てる場面で適切に構想が立てられなくても、既習の内容が使えるのではないかと考え、ノート等を見直し、解決のきっかけを見いだそうとする様子を観察し、評価することが考えられます。また、問題を解決した後、解決した内容や方法を振り返る場面で、ノート等を使ってこれまでの学習の内容と関連付けようとする姿を評価することも考えられます。

⑤ 学習の内容や方法について個別に面談を行い、面談の内容を評価に生かす例

生徒の中には、「授業中に発言ができない」、「自分の考えを記述できない」等、学習状況が見取りにくい生徒や学習の調整のきっかけがつかめずにいる生徒もいます。そのような生徒に対して、自らの学習の調整を促すために学習の内容や方法について個別に面談することが考えられます。個別の面談で自己を振り返る場面を設定して評価に生かすとともに、聞き取った内容を基に授業改善につなげましょう。

理科

「主体的に学習に取り組む態度」では、生徒が自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしているかを、発言や記述の内容、行動の観察などから状況を把握します。

【具体的な事例について】

単元名：天体の動きと地球の自転・公転

※ 目標や評価規準等の詳細は、『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 中学校・理科」 P.46～P.55 を参照してください。

ポイント：ワークシートの記述を分析することにより、評価を行う。

本時（第5時）のねらい

地球の自転によって起こる相対的な動きによる見え方を理解するとともに、相対的な動きによる見え方と地球の自転とを関連付けて、モデルを用いて地球の自転の向きを推論する。

本時の主体的に学習に取り組む態度の評価についての考え

- ・ 本時の展開において、「どの向きに地球は自転しているか」という課題を設定し、太陽や星の日周運動に関する知識及び技能と、動いている電車の中にいる人とホームにいる人の見え方とを対比しながら解決する。
- ・ 終末で、課題解決の過程を振り返り、ワークシートに記録する。記述した内容を分析することによって、主体的に課題解決に取り組む態度について評価する。

評価規準：太陽や星の日周運動について、モデルを用いて試行錯誤しながら、地球の自転の向きを推論しようとしている。

<ワークシートの構成例>

天体の日周運動から、どの向きに地球は自転していると言えるか、根拠を示して考えを書きましょう。
学習前の考え
学習後の考え
自転の向きを考察する過程で、どのように解決しようとしたか。学習前後の考えを比較して記述しましょう。

【評価Bの例】

学習方法や課題を解決しようとした取組が記述できているので、主体的に学習に取り組む態度の観点で「おおむね満足できる」状況（B）と判断できる。

はじめは何から考えればよいか分からなかったけれど、動く方向と逆に見える友達の話が言っていたので、なるほどと思った。

【評価Aの例】

学習方法や課題を解決しようとした取組が記述できており、学習意欲やそれを高めた方法を記述しているので、主体的に学習に取り組む態度の観点で「十分満足できる」状況（A）と判断できる。

モデル実験の結果を実際の太陽の動きと合わせて考えた。乗り物に乗って目の前の風景が近づいてくように見えることと原因は同じことに気付いた。
地球が自転する映像はよく見るが、自転の向きを方位で考えたことがなかったので、楽しんで取り組めた。

【評価Cの例】

学習方法や課題を解決しようとした取組、学習意欲やそれを高めた記述がない。また、課題を解決できたことも把握できないので、主体的に学習に取り組む態度の観点で「努力を要する」状況（C）と判断できる。

友達の話聞いて分かった。

【「努力を要する」状況と評価した生徒に対する指導の手だて】

学習内容に興味・関心が低く、課題に対して粘り強く取り組もうとしていない状態にあると考えられる。個別に基礎的な内容から指導を行い、主体的に学習に取り組む態度を身に付けることができるように支援する。

外国語

「主体的に学習に取り組む態度」では、外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている状況を評価します。

「主体的に学習に取り組む態度」の具体的な評価の方法と留意点

- 授業中の言語活動やパフォーマンステスト等で実際に見取ることができるよう、「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を「思考・判断・表現」と対の形（「思考・判断・表現」の評価規準の文末「～している」を、「～しようとしている」とする。）のように設定し、**基本的には一体的に評価する**。
- 生徒の特性や学習段階により、主体的に学習に取り組む態度が「思考・判断・表現」の評価場面（コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じた発話や筆記等）に必ずしも表れない場合もある点に留意する。
- 「思考・判断・表現」の評価場面に、主体的に学習に取り組む態度が表れていない場合、言語活動への取組状況（見通しを立てたり振り返ったりして自らの学習を自覚的に捉えている状況）を観察し、その結果を加味する。

【具体的な事例について】

第1学年の1学期に「話すこと [やり取り]」のパフォーマンステストを実施した場合の例

※ 目標や評価規準等の詳細は、『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 中学校・外国語のP.79～P.82を参照してください。

ポイント

- ・ 「主体的に学習に取り組む態度」は、基本的には「思考・判断・表現」と一体的に評価する。
- ・ 「自己調整を図った結果、態度となって表出した言語活動への粘り強い取組」の状況を評価する。

第1学年の第1学期（3学期制の場合）に次の指示文を示してパフォーマンステストを行った場合、以下のように評価することが考えられます。

【指示文】

英語の授業で、初めて会うALTの先生に、自分のことをよく分かってもらえるよう、何を伝えたらよいかを考えて自己紹介をしてください。また、ALTの先生からの質問にできる限り詳しく答えてください。

【生徒】の評価

- 「知識・技能」 → 「c」（発話された英語に誤りが多かったため）
「思考・判断・表現」 → 「c」（興味や関心のある事柄についてやり取りすることができていなかったため）
「主体的に学習に取り組む態度」 → 「c」（やり取りをしようとする態度が見られなかったため）

【生徒】の、パフォーマンステストの結果及び1学期で学習した単元（1～3課）の観察結果が以下のような状況（「b」と「c」が同数）であった場合、この事例ではパフォーマンステストの結果を重視して、「知識・技能」及び「思考・判断・表現」については、どちらも「c」としています。このとき、「主体的に学習に取り組む態度」は「思考・判断・表現」と一体的に評価するという考え方から「c」とすることが考えられますが、下記のとおり、「b」とすることも考えられます。

	1課の結果	2課の結果	3課の結果	パフォーマンステストの結果	話すこと [やり取り] の評価結果
知識・技能	c	b	b	c	c
思考・判断・表現	c	b	b	c	c
主体的に学習に取り組む態度	c	b	b	c	b

「主体的に学習に取り組む態度」を「b」とした理由

① 以下の振り返りの記述内容から、自己調整を図ることができていると判断したため

（何を意識すれば言語活動に取り組むことができるようになるかを理解している記述例）

自己紹介ができるようになってきました。でも、今日のパフォーマンステストでは、ALTの〇〇先生の質問に答えられませんでした。聞かれていることが分からなかったときは質問すればよかったけれど、緊張して質問できませんでした。今度は、ちゃんと聞かれたことの意味を確認したいです。

② 振り返りに記述されていること（質問されたことの意味を確認するなど）が、1課から3課の言語活動において、**実際に態度となって表れていたため**

- ◆ 学期末等の総括の段階で、「b」と「c」のどちらもあり得る場合に限り、**振り返りで記述している内容が、授業における言語活動への取組の様子にいくらかでも実際に表れていれば、「c」ではなく「b」と総括すること**が考えられます。